

食育推進計画(第二次)掲載事業(令和6年度実績)

No.	該当する目標	事業名	事業内容	実施課	対象者	令和6年度実施時期	令和6年度実績(経費)	令和6年度実績(その他)	効果	課題	課題の解決策	令和7年度の方向性	令和7年度の方向性(詳細)
1	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	配食サービス	対象者に、高齢者向けの夕食を毎日配食するとともに、安否の確認を行う。	長寿支援課	食事を作ることが困難な、概ね65歳以上の単身または、虚弱な高齢者世帯	通年	72,686,000円	延利用者数 6,789人 配食数 161,524食	毎日夕食の手渡し配達により、利用者の安否確認や健康状態、生活状態が把握でき、また生活上の負担軽減、食生活の改善等により在宅生活を維持できるようになった。	カロリー、塩分量などに配慮した特別食の対応。	利用者へのアンケート等を実施してニーズを把握する。	継続	利用者向けのアンケートの実施、制限食や咀嚼・嚥下能力に応じた食事の提供、業者から提供されているメニューの把握、試食会の開催等について検討する。
2	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	口腔教室 (介護予防普及啓発事業)	口腔機能の向上を中心とし、併せて栄養改善、運動器の機能向上等を含めた総合的な介護予防プログラムを実施する。	長寿支援課	要介護認定を受けていない65歳以上の市民	通年	8,662,500円	参加者数 139人 実施回数 126回 (1教室6回) ※21教室実施	健康状態の改善又は維持により教室を終了されるかたの割合が高く、主観的健康感や基本チェックリスト等における結果も改善となる傾向となった。	参加者を増加させるため、一層の周知が必要。	高齢者の参加意欲が高まるよう、介護予防の効果を分かりやすく見える化するともに、ケアマネジャー等へ周知し、制度への理解を図る。	継続	口腔機能の重要性を理解し、介護予防の意識を向上していただけるよう継続して実施する。
3	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	楽しく、おいしい給食の提供 (保育所における食育の推進)	成長発達に必要なエネルギー及び栄養素を満たすとともに、食べる喜びや楽しさが感じられる給食を提供している。 旬の食材を使用した季節感のある給食や、行事食を取り入れるなどして日本の食文化を伝えており、また、新献立を積極的に取り入れることで、子どもの食体験が広がるように工夫し、和食の推進にも力を入れている。日々の給食を生きた教材として活用し、より食に親しむ機会を提供している。	保育運営課	公設公営保育所(25ヶ所) 公設民営保育所(10ヶ所) 在籍児	通年	—	公設公営・公設民営保育所在籍児約3,000名	家庭では食べる機会が少なくなってきた日本の伝統的な食材(ひじき・おから・切干大根など)や苦手な野菜も、他の子どもと食事をする中で給食で繰り返し提供されることで食べられるようになる子どもが増えている。	偏食や食への関心が低いなど課題がある子どももいる。また、減塩など給食も含めた食習慣の改善には、長期計画で取り組む必要がある。	偏食については個別に声掛けを行う他、苦手な子どもが多い食材は食べやすい工夫して献立に取り入れていく。また、「食べてみたい」と思えるような献立を作成し、食への関心を高めている。子どもの頃から薄味に慣れられるよう、素材の味を生かした減塩の献立を研究する。	継続	今後も給食を通じて、子どもの心身の健全な成長発達に貢献するとともに、和食の推進や食体験の広がりを目指す。また、さらに食への興味・関心を高め、食べる喜びや楽しさを感じられるような給食の提供を継続していく。
4	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	家庭配布用献立表の作成 (保育所における食育の推進)	家庭配布用の献立表に献立名その他、使用食材や栄養価を記載し、情報の提供を行っている。特に使用食材については、主に含まれる栄養素によって3群に分類して記載し、体内での働きなどが分かるようにしている。献立表を通し、バランスよく食べることの大切さも周知できるように作成していく。	保育運営課	公設公営保育所(25ヶ所) 公設民営保育所(10ヶ所) 在籍児とその保護者	通年(毎月1回)	464,830円	公設公営・公設民営保育所在籍児約3,000名及び保護者	保育所の給食献立や料理の組み合わせは、家庭でも参考になっているように、子どもが食べたがるのでレシピを教えて欲しいという要望もある。	食への関心があまり高くない保護者もいるため、子どもだけでなく、保護者への情報提供も必要である。	家庭配布用献立表に栄養のコラムを載せるなどして、献立以外の情報も提供していく。また、「これはどんな料理だろう」と興味を持ってもらえるような献立を作成する。	継続	今後も、給食が家庭での食育推進の一環となるように、生きた教材としての活用を行っていく。
5	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	ひらがな献立表の作成 (保育所における食育の推進)	主に5歳児を対象に、子ども向けのイラストをカラーで記載し、目で見て楽しめる献立表として作成することで、子どもの給食に対する興味・関心を高める。	保育運営課	公設公営保育所(25ヶ所) 公設民営保育所(10ヶ所)5歳児	通年(毎月1回)	—	公設公営・公設民営保育所在籍児約900名	今日の給食は何だろう、大好きな献立はいつ入っているのかなと献立を確認している子どもたちが多く、給食に対する興味関心を感じられた。	給食前に当番が読み上げるなどの取組を行っている保育所も多いが、あまり関心を持たない子どももいる。	より興味関心を高めるため、目を引くようなイラストを入れたり、読みやすい文体にする。	継続	今後も、食に関する興味・関心が高まるよう、親しみやすい「ひらがなこんだて」の作成を行う。
6	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	食育だよりの作成 (保育所における食育の推進)	食に関する情報、給食献立や旬の食材の紹介、人気献立のレシピなどを盛り込んだ「食育だよりの」を作成し、配信する。	保育運営課	公設公営保育所(25ヶ所) 公設民営保育所(10ヶ所) 在籍児とその保護者	通年(毎月1回)	—	公設公営・公設民営保育所在籍児約3,000名及び保護者	毎月楽しみに読み、給食のレシピを参考に家庭でも作ってみたいという保護者も多く、リクエストを頂くこともある。	楽しみにしている保護者がいる反面、ほとんど目を通さない保護者もいる。	簡単にできるレシピを載せるなど、すぐに役立つ内容を充実させる。また、行政の立場から、科学的根拠に基づいた情報を提供する。	継続	食に関する膨大な量の情報が氾濫している中、行政の栄養士という立場から、科学的根拠のある正しい情報を分かりやすく伝えることを目指し、今後も継続していく。
7	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	食の体験活動 (保育所における食育の推進)	園庭での野菜や果物の栽培・収穫を通して、食への興味・関心を高める。栽培したものは実際に調理して食べることで、育てる喜びと食べる幸せが感じられるようになり、育てて収穫し、食べるという一連の流れを体験することで、豊かな心を育てる。	保育運営課	公設公営保育所(25ヶ所) 公設民営保育所(10ヶ所) 在籍児	通年	402,215円	公設公営・公設民営保育所在籍児約3,000名	苦手な野菜でも、自分達で育てたものは食べられたという子どもも多く、好き嫌いが少なくなったなどの変化も見られる。	収穫した野菜は給食の一部に使用したり、クッキング体験を行ったりしているが、そこまでの収穫が得られないこともある。	収穫量が少ないとクッキング体験などが難しい場合もあるが、食べる以外にも観察したり、触ったり、栽培の過程を振り返ったりするなどして、食への関心を高めていく。	継続	今後も園庭栽培を通して、育てることや食べることへの興味・関心を高めていく。
8	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	食物アレルギーへの対策 (保育所における食育の推進)	医師の所見に基づく代替食や除去食の提供を基本とし、3大アレルギーの食品を使用しない献立の研究を行う。なお、食物アレルギー対応マニュアルを必要に応じて見直し、時代のニーズに沿った改訂も随時検討していく。	保育運営課	公設公営保育所(25ヶ所) 公設民営保育所(10ヶ所) 在籍児とその保護者	通年	—	公設公営保育所在籍児及び保護者	食物アレルギーの対応が分かりやすくなり、誤食防止にも役立っている。また、みんなと一緒に食べられる献立が増え、調理員・保育士の負担軽減にもつながっている。	原因食物が多様化している。	卵・乳・小麦の3大アレルギー以外にも配慮し、使用しない献立は難しくとも、代替食や除去食が作りやすいように工夫する。	継続	今後も、保育所での誤食防止を第一に、食物アレルギー児でも安心して食べられる給食の提供を継続し、更なる向上を目指す。
9	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	食育の巡回指導 (保育所における食育の推進)	栄養士が巡回し、食育指導を行う。	保育運営課	公設公営保育所(25ヶ所)5歳児	通年(各保育所年1回)	—	公設公営保育所5歳児約700名	身近な食材にし、それが食卓に届くまでの流れや生産者の思いを伝えている。指導後は、給食を残さずに食べようとする姿が見られている。	年1回しか巡回できないため、継続した指導が難しい。	一口メモや食育ポスターを通して、継続的に食に親しむきっかけを提供していく。	継続	今後も、食への興味・関心、食べ方の改善、衛生面など様々な食に関する指導を行っていく。
10	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	給食の展示食 (保育所における食育の推進)	保育所で提供した給食・おやつやの展示食を行い、保護者に保育所での提供量や料理の組み合わせを参考にってもらうとともに、子どもとの会話のきっかけにもなるようにしていく。	保育運営課	公設公営保育所(25ヶ所)在籍児とその保護者	通年	—	公設公営保育所在籍児及び保護者	展示食を見ながら保護者と子どもが給食について話していることもあり、食に関する会話のきっかけにもなっている。盛り付け量など、保育所の給食が参考になったと話す保護者も多い。	展示食を行うスペースがない、保護者がゆっくり見る時間がないなどの問題もある。	実物があると分かりやすいが、難しい場合は写真にするなどして、保護者に見てもらえるよう工夫する。	継続	今後も展示食を通じて、食に関する興味・関心が高まるよう、事業を継続していく。
11	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	給食を通した食育指導 (保育所における食育の推進)	当日の給食の献立や使用食材に関する情報を子ども向けにまとめた「給食一口メモ」を作成し、保育士から伝えてもらい、日々の給食に関心を持たせることで、食への興味を高める。	保育運営課	公設公営保育所(25ヶ所) 公設民営保育所(10ヶ所)	通年	—	公設公営・公設民営保育所在籍児約3,000名	給食一口メモを楽しみにしている子どもも多く、食べ物に関する話題が多くなっている。	年齢に合わせた表現が難しい。	年齢によって難しい表現は、保育士に分かりやすい言葉で伝えてもらう。	継続	日々の給食を通して、より食に親しんでもらう機会を増やすために、今後も食への興味・関心が高まるような給食一口メモを作成していく。
12	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	食育ポスターの掲示 (保育所における食育の推進)	食育ポスターを毎月作成し、保育所で掲示する。保護者への情報提供の他、親子で楽しめるクイズなども掲載し、家庭での食育につながるようにしていく。公設民営保育所・民設民営保育所(園)にはポスターをメールで送付している。	保育運営課	公設公営保育所(25ヶ所)在籍児とその保護者、公設民営・民設民営保育所	通年(毎月1回)	—	公設公営保育所在籍児及び保護者、公設民営・民設民営保育園	食育ポスターをよく見ている保護者も多く、保育所からも是非続けて欲しいとの声がある。また、公設民営保育所・民設民営保育園においても園に掲示して活用してもらっている。	忙しい保護者には、なかなかポスターを見る時間がないこともある。	伝えたい情報が目に入るような内容やレイアウトを工夫する。また、クイズコーナーを充実させ、子どもと一緒に楽しめる時間を作る。	継続	今後も必要とされる情報を分かりやすく伝えることができるよう工夫していく。
13	3 川口の食文化 知ろう 創ろう つなげよう	行事食の提供 (保育所における食育の推進)	伝統的な日本の食文化について理解・関心を高めるため、献立に行事食を取り入れる。行事食を提供する際には「給食一口メモ」や「食育だよりの」でもその由来を説明し、意味を知って食べることで、より行事食への理解を深める。	保育運営課	公設公営保育所(25ヶ所) 公設民営保育所(10ヶ所) 在籍児	通年(毎月1回)	—	公設公営・公設民営保育所在籍児約3,000名	行事食や郷土料理を楽しみにしている子どもが多く、楽しんで食べており、川口市の日の行事食も定着してきた。	行事食は年1回の提供となるものが多く、楽しみにする反面、なかなか定着しない。郷土料理で人気があるものは頻りに献立に取り入れているが、マネリ化してしまうなどの問題がある。	給食で提供しやすいようにレシピを工夫し、様々な郷土料理を取り入れていく。行事食は年1回の提供が多いが、保育所だけでなく家庭でも作ったり話題にでももらえるよう、レシピなどの情報提供を行っていく。	継続	今後も給食を通じて、行事食や郷土料理を含めた日本の食文化への理解を深め、和食の推進を図る。

食育推進計画(第二次)掲載事業(令和6年度実績)

No.	該当する目標	事業名	事業内容	実施課	対象者	令和6年度実施時期	令和6年度実績(経費)	令和6年度実績(その他)	効果	課題	課題の解決策	令和7年度の方針性	令和7年度の方針性(詳細)
14	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	乳幼児のむし歯予防 (乳幼児健康診査・健康相談事業)	各保育所で、年1回の歯科医師による歯科検診の実施の他、乳幼児期のむし歯予防として、歯みがき教室や紙芝居・絵本等を通しむし歯予防の大切さを知らせると共に、食後のうがい、歯みがき、フッ化物洗口等の指導を行っている。	保育運営課	・公設公営保育所(25ヶ所) ・公設民営保育所(15ヶ所) 在籍児	歯科検診・むし歯予防教室:6月頃～ フッ化物洗口:5月頃～	2,932,240円	フッ化物洗口事業 1,606名	歯科検診によるむし歯の早期発見、口ゆすぎ・歯みがき・フッ化物洗口により、日々のむし歯予防に努めることができました。歯の大切さや予防の重要性について伝えることで、子ども意識向上にもつながりました。	施設により、罹患率に差があることから、罹患率が高い施設については、歯磨きの指導等を見直す必要がある。	施設に平均の罹患率を周知し、自分の施設が罹患率が高いのか低いのかを確認してもらうことで、現状を認識してもらう。	継続	今後も、むし歯のない心身ともに健康な身体づくりを目指し、事業を継続していきます。また、歯の大切さや予防の重要性についても指導を続け、子ども達の意識向上に努めます。今後、実施していない保育所にもフッ素洗口の効果について伝えていき、少しでも多くの施設で実施してもらえるよう進めていきます。
15	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	健康・生きがいづくり通信	市民の健康・生きがいづくりに関する意識や関心を高めることを目的に、年1回テーマを決めて発行する。	保健総務課	市民	3月	135,520円	配布枚数:8,000枚	各施設及び関係課だけでなく、関係団体においても幅広く配布いただいたことにより、市全体に健康・生きがいづくりに関する情報を提供することができた。	—	—	継続	健康に無関心な方が自発的に健康づくり、生きがいづくりに、関心を持ってもらえるような取組みを検討していく。
16	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	川口健康フェスティバル	健康フェスティバル実行委員会において、健康意識の高揚、健康づくりの啓発・普及を図るため、各種健康体験コーナーを開設する中で、食を通じた健康づくりの啓発を行う。	保健総務課	市民	9月	3,062,000円	参加者数 376名	健康講演、医師等による健康相談により、健康・生きがいに関する意識の高揚が図られた。	—	—	継続	より幅広い世代に関心をもってもらえるよう、実施方法や内容の検討を行っていく。
17	3 川口の食文化 知ろう 創ろう つなげよう	食生活改善推進員養成講座	新たな食生活改善推進員(ヘルスマイト)の養成を目的に、食生活改善や健康づくりについて学び、食生活改善推進員として必要な知識を習得してもらうために、全8回の講座を開催。 講座では、健康づくりに携わる者の基礎知識として定められた内容を、専門知識を有する医師、管理栄養士、運動指導士などを講師に20時間程度学習する。 一人でも多くのかたが、食を通じた健康づくりの担い手として、地域に密着し、食生活の改善と体力の増進を図り、市民の健康づくりのためのボランティア活動を積極的に取り組むことを期待するもの。	保健総務課	川口市民	令和6年9月から11月(全8回)	98,224円	参加者数 15人	受講者の健康づくりに対する意識と知識の向上に繋がった。	食生活改善推進員の平均年齢が年々高くなり、退会者が増えているため、新たな担い手を養成して会員を増やすことが不可欠となるが、受講後、協議会への入会に至らない場合が多く、会員増加に繋がりにくい。	より協議会に興味を持ってもらうよう、協議会のPR等の機会を増やす。	継続	引き続き食生活改善推進員協議会の取組みを市民に周知するとともに、養成講座の実施内容等の見直しも含め検討していく。
18	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	食生活改善推進員リーダー研修	川口市食生活改善推進員協議会は、約400人の会員があり、各公民館を拠点に活動する26支部により組織されている。 「健康づくりは家庭から」「私たちの健康は、私たちの手で」をスローガンに、食生活の改善と体力の増進を図り、市民の健康づくりのためのボランティア活動を積極的にしており、その活動時の中心的役割を果たす支部長(リーダー)等の職能を向上させるため、毎月1回「食生活改善推進員リーダー研修」を実施。	保健総務課	食生活改善推進員	毎月第2水曜日(8月を除く)	292,464円	参加者延数 275人 開催回数 11回	リーダー研修後に各支部で行われている伝達講習等により、各会員の意識と知識の向上が図られ、その知識を地域住民に講習会や教室等で広めることで、市民の食を通じた健康づくりと体力の増進に成果を挙げている。	活動内容が固定化されているが、各支部の会員数減少や高齢化等で新しい活動の提案が起りづらい。	他市町協議会の活動等を参考に、活動内容の見直し等を検討する。	継続	「食」を通じた市民の健康づくりを推進していくためには食生活改善推進員の支援は必要不可欠であり、会員の知識等の向上のためにも、今後も継続的に実施していく。
19	3 川口の食文化 知ろう 創ろう つなげよう	川口市の郷土食等に関する情報提供	ホームページ等で川口市の郷土食や食に関する取り組みについて情報提供を行う。	保健総務課	市民	通年	—	—	川口市独自の食文化や郷土食の文化継承に役立った。	—	—	継続	啓発活動及び取組の方策を検討し、郷土食等の文化の継承に努めていく。
20	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	食育に関する情報の発信	平成29年3月に策定した川口市食育推進計画(第2次)の概要、取り組み、各種献立等を川口市ホームページに掲載し、随時、情報を提供する。	保健総務課	市民	通年	—	—	市民の食育に関する意識の啓発を図ることができた。	—	—	継続	情報発信の方法や取組の方策を検討し、食育の推進を図っていく。
21	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	巡回みんなの保健室 (成人健康相談)	予約制で、心身の健康に関する個別の相談に応じ、必要な指導及び助言を行い、家庭における健康管理に資することを目的とし、希望者には、健康チェックとして、身長・体重・腹囲・血圧測定、BMI・体脂肪計測を行う。また、保健師、栄養士、歯科衛生士による個別相談(保健、栄養、歯科等)も併せて実施している。	健康増進課	市民	通年	193,759円	参加者数 384人 開催回数 12回	参加者の不安を軽減でき、本人及び家族の健康管理に役立った。また、包括連携協定を締結しているショッピングモールでも実施したため、広く健康や疾病予防に関する知識の普及が行えた。	地域保健センター会場での実施は利用者が少ない。	実施会場の検討。 ICTを活用し周知する。	継続	実施会場の精査。 周知や予約時にICTを活用し、民間施設と協働し実施する。
22	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	Web利用型自己採血検査	Webによる申込制で、自宅に届いた検査キットで自己採血し、血糖・血中脂質など14項目の結果をメールで確認、その後専門職に健康相談ができる。これにより、対象者が自らの健康課題に気づき、自分に合った健康づくりができるよう支援している。	健康増進課	健康診査を受ける機会のない、 25歳～39歳の市民	7月～9月	730,351円	申込者数 150人 受検者数 119人	自宅にいながら検査ができるため、本人のライフスタイルに合わせた健康管理に役立った。	健康増進課への申込みは定員に達したが、その後の委託業者への申込みが伸びなかった。	業者への申込みが必要である旨のリマインドを行う	継続	申込方法について周知を徹底し、受検を促す。
23	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	成人歯科健康診査	歯や歯肉の状況からむし歯や歯周病の有無を確認、噛み合わせを含めた口の中全体を検査する。	健康増進課	18歳以上の市民	通年	23,849,696円	受診者数 3,892人	健診を通して自らの口腔内の健康状態や正しい知識・情報を知る機会となり、疾病の予防および早期発見・早期治療、健康に対する意識の向上に繋がった。	受診率が低い。	受診率向上に向けて、受診勧奨・周知の方法を検討する。	継続	引き続き、委託先と協働の上、実施していく。
24	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	歯科ドック	唾液検査によりむし歯菌の活動判定や歯周病に伴う潜血反応等から口の中の病気のリスクを検査する。	健康増進課	18歳以上の市民	通年	4,444,514円	受診者数 1,518人	健診を通して自らの口腔内の健康状態や正しい知識・情報を知る機会となり、疾病の予防および早期発見・早期治療、健康に対する意識の向上に繋がった。	受診率が低い。	受診率向上に向けて、受診勧奨・周知の方法を検討する。	継続	引き続き、委託先と協働の上、実施していく。
25	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	口腔がん検診	舌がん・歯肉がん等口腔にできるがんを、問診・視触診にて検査する。	健康増進課	30歳以上の市民	通年	7,959,100円	受診者数 1,904人	健診を通して自らの口腔内の健康状態や正しい知識・情報を知る機会となり、疾病の予防および早期発見・早期治療、健康に対する意識の向上に繋がった。	受診率が低い。	受診率向上に向けて、受診勧奨・周知の方法を検討する。	継続	引き続き、委託先と協働の上、実施していく。
26	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	訪問歯科健康診査	医師等が訪問し、歯や歯肉の状況から、虫歯や歯周病の有無を確認、噛み合わせを含めた口の中全体を検査する。	健康増進課	市民で、寝たきり等の理由により歯科医院に行くことが困難な65歳以上のかた、または、特別障害者手当もしくは障害児福祉手当の支給資格に相当する障害児・者	通年	3,566,842円	受診者数 78人	健診を通して自らの口腔内の健康状態や正しい知識・情報を知る機会となり、疾病の予防および早期発見・早期治療、健康に対する意識の向上に繋がった。	訪問歯科診療との線引き	訪問歯科診療の窓口である川口訪問歯科センターと都度検討する。	継続	引き続き、委託先と協働の上、実施していく。
27	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	歯と口の健康フェスティバル	う蝕や歯周病の予防、口腔機能の維持を目的とした正しい歯科保健知識の普及啓発を行い、生涯を通じた口腔ケアの向上を図る。	健康増進課	川口市民	6月2日	969,694円	参加者数 569人	正しい歯科保健知識の普及啓発ができ、生涯を通じた口腔保健の向上を図ることができた。	リア改修のため、西公民館に会場を変更したが集客に影響があったかは不明である。しかし、実施内容に変化が乏しく、さらなる集客につながるような企画が必要。	実施内容を精査して実施していく。	拡充	集客を図るため、内容を見直し開催する。

食育推進計画(第二次)掲載事業(令和6年度実績)

No.	該当する目標	事業名	事業内容	実施課	対象者	令和6年度実施時期	令和6年度実績(経費)	令和6年度実績(その他)	効果	課題	課題の解決策	令和7年度の方向性	令和7年度の方向性(詳細)
28	1 学んで実践！私に合った健康な食生活	おとなの食育講座	食事についての望ましい習慣を学びながら食を楽しむ機会の提供や適切な栄養管理に関する知識の普及や情報の提供を行う。 ・川口の郷土食で高血圧予防(6月)	健康増進課	おおむね64歳以下の市民	年1回(6月)	—	参加者数 6月:15人	調理実習を再開させたことで受講者の実践につながりやすくなった。生活習慣病予防や川口市の食資源に対する学びを深められた。	調理実習を再開させたことで、多くの申込みがあったが、少人数向けの内容になってしまう。	レシピ動画等のオンデマンド配信を実施する。感染防止対策をとり、調理実習を再開する。	継続	オンデマンド配信を活用する。
29	1 学んで実践！私に合った健康な食生活	乳幼児健康診査	乳幼児の心身における疾病や異常の早期発見、進行予防及び育児に関する相談・指導を行う。発育発達が気になる児及びその保護者に対し、心理相談員などが相談に応じ保護者の不安を軽減し、育児支援をする。健診未受診児に対しては、通知や訪問、関係機関への問い合わせを実施し、児の発育発達、養育環境等を確認し、併せて居所を確認している。  3・4か月児健康診査、10か月児健康診査、1歳6か月児健康診査、1歳6か月児歯科健康診査、フッ化物塗布 3歳児健康診査	健康増進課	・3・4か月児健康診査:3～5か月未満の乳児 ・10か月児健康診査:10か月から1歳になる前日までの乳児 ・1歳6か月児健康診査、歯科健康診査:1歳6か月から2歳未満の幼児 ・フッ化物塗布:1歳6か月から3歳未満の幼児 ・3歳児健康診査:3歳6か月から4歳になる月までの幼児	通年	124,667,732円	受診者(利用者)数: 23,261人	乳幼児の心身の発達等を促すとともに、保護者への相談指導を通して育児不安等の軽減を図り、家庭でも適切な対応ができるようサポートができた。外国人に対する周知や健診問診票等の外国語版を作成し、外国人の受診率が向上した。	目標とする受診率に達していない。 未受診理由を把握し、受診率向上に向け周知方法等を検討する。	継続	未受診理由の把握、受診率の向上に努める。	
30	1 学んで実践！私に合った健康な食生活	ウエルカムBaby教室	妊娠・出産・育児等に関する知識の普及や母体の健康保持を図るため、妊産婦の食事についての情報提供等を行い普及・啓発を行う。	地域保健センター	妊娠12週～31週6日までの妊婦とそのパートナー	毎月2回	146,000円	参加者数 実施回数 1,006人 23回	講義は実施していないが、紙媒体による周知により、食事の大切さについて考える動機付けとなった。	動機付けから行動変容につながる教育方法について検討が必要。	妊産婦の食事に関する知識の普及方法について検討する。	継続	妊産婦の食事に関する知識の普及・啓発の方法について検討。
31	1 学んで実践！私に合った健康な食生活	離乳食講習会	離乳食の講義や試食、離乳食づくりのデモンストレーションを行い、フードモデル、食品、食器の展示をする。	地域保健センター	生後3～5か月の乳児とその保護者	毎月1回	110,000円	参加者数 実施回数 505人 12回	離乳食の知識を普及し、乳児の心身の健全な発達を促し、保護者の育児不安の解消を図ることができた。	個人に合った食の選択ができるように、情報の普及・啓発の方法について検討が必要。	継続	市民のニーズに合うように、アンケート結果等を参考にしながら、栄養に関する知識の普及方法について検討する。	
32	1 学んで実践！私に合った健康な食生活	幼児食講習会	離乳完了から幼児期の食事についての講義、手づかみ食べをテーマとした幼児食の試食や、質問・相談を実施する。	地域保健センター	1歳から1歳6か月の幼児とその保護者	年6回	135,000円	参加者数 実施回数 120人 6回	離乳完了期に必要な栄養の知識を普及し、幼児の心身の健全な発達を促し、保護者の育児不安の解消を図ることができた。	個人に合った食の選択ができるように、情報の普及・啓発の方法について検討が必要。	継続	市民のニーズに合うように、アンケート結果等を参考にしながら、栄養に関する知識の普及方法について検討する。	
33	1 学んで実践！私に合った健康な食生活	食育教室(わくわくクッキング教室)	食に対する関心・興味を持たせ、子どもが健やかに育つよう食を通じた教育を行う。 ・バランスの良い食事についての話 ・親子調理実習と試食 ・バランスの良い食事・成長期に必要な栄養などの講義	地域保健センター	就学前年度の5、6歳児とその保護者	年2回	27,000円	参加者数 実施回数 33人 2回	親子で食育体験や調理実習をすることにより、食べ物に対する関心や興味を深めることができた。	個人に合った食の選択ができるように、情報の普及・啓発の方法について検討が必要。	継続	市民のニーズに合うように、アンケート結果等を参考にしながら、栄養に関する知識の普及方法について検討する。	
34	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	食の安全に関する情報提供	食中毒の発生を予防するため、啓発物の配布、広報紙やホームページ等を活用し、食の安全に関する情報の提供を行っている。 食品等事業者向けの講習会や個別相談による指導・助言を行っている。	食品衛生課	川口市民、市内食品等事業者	R6.4.1～R7.3.31	271,050円	広報等周知 相談・講習会 19回 14回	食中毒事件の発生や菌・ウイルスの特徴の周知により、市民の食の安全に関する意識を高める効果があった。	—	—	継続	引き続き、市民・事業者に対し食に関する予防啓発・注意喚起を行い、情報をより広く普及できる方法を検討する。
35	1 学んで実践！私に合った健康な食生活	特定健康診査 特定保健指導	特定健康診査は、生活習慣病の前段階であるメタボリックシンドロームに着目した健康診査であり、受診者のうち、生活習慣病にかかるとリスクが高いと判定されたかたに対し、保健師や管理栄養士等による生活習慣改善のための特定保健指導を行う。	国民健康保険課	川口市国民健康保険に加入している40歳から74歳のかた	特定健康診査 令和6年6月～令和7年2月 特定保健指導 令和6年9月～令和7年3月	・特定健康診査 234,877,555 ・特定保健指導 23,900,772	参加者数(令和7年9月26日時点) ・特定健康診査 22,210人(34.2%) ・特定保健指導 積極的支援 59人(7.9%) 動機付け支援 133人(6.9%)	令和6年度の特定健康診査は未だ確定していないが、例年特定健康診査対象者の約3割であり、今後の特定健康診査の低下が見込まれる。 特定保健指導実施率は県と大きく差はないが、当市の状況を経年でみると昨年と比較し微増している。一方でメタボリックシンドローム該当率は微減、予備群該当率は微増傾向であるが、県と比較すると高く、引き続き特定保健指導の未利用者対策を実施していく必要がある。	特定健康診査については、個別性に合わせた受診勧奨通知の送り分けを行い、未受診者および不定期受診者の受診率を向上させる。また若年者全体の受診率向上に向け、次年度40歳(年度末年齢39歳)となる者へ通知を送る等動機を強化する。 特定保健指導未利用者に対して複数回の通知勧奨と電話勧奨を向上を図る。また、途中脱落を防ぐため、インセンティブとして初回面接時に参加者が選択した健康に役立つ物品を終了時に付与し、終了者の増加を図る。	継続	更なる向上のため、特定健康診査については初回受診者に対してインセンティブの付与を行う。特定保健指導については健診前に生活習慣改善を促す通知の発送や健診結果説明会と初回面接の同時実施、特定保健指導修了者に対してインセンティブの付与を行う。また、国のプログラムが成果型になるため、指導内容、方法も変更する。	
36	1 学んで実践！私に合った健康な食生活	後期高齢者健康診査事業	後期高齢者医療制度加入者の健康保持や生活習慣病の早期発見を目的とし、希望者に対して身体測定・血液検査を実施する。	高齢者保険事業室	市内在住の後期高齢者医療制度被保険者のかた	令和6年6月～令和7年2月	224,151,699円	受診者数 16,912人	疾病の早期発見や健康状態の保持・増進に寄ることができた。	埼玉県内の他市町村と比較して受診率が低い。	対象者全員に受診券を送付するとともに、ホームページ等の広報で案内周知し、受診率向上を図る。	継続	受診率向上に努めるとともに後期高齢者医療制度における保健事業の重要な施策として今後も継続実施していく。
37	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	エコライフDAY	6月(環境月間)の「エコライフDAY(第2日曜日)」のチェックシートに「食」に関する項目をのせ、食生活においてできるエコな取り組みを呼びかけている。	環境総務課	市民	6月の第2日曜日	—	参加者数 64,455人	毎年多くの市民が参加し、食に関する啓発が進んでいる。また、主たる目的である二酸化炭素削減は、昨年度実績で57,832,343gの削減効果があった。	意識せず取り組むことが日常的になったことや、電子化による報告忘れなどから、前年度と比べ参加者数と削減効果の実績値が低下した。	報告忘れを防ぐため、学校に担当者を設置し連絡を密に行い、保護者や生徒に周知徹底のお願いをする。	継続	参加者数を2030年度に100,000人/年となるように周知情報などを検討する。
38	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	「食品ロス」に関する意識啓発	パネル展示、ホームページ、小学校中学校社会科学習資料、広報かわぐち及びパンフレット、市内公共施設におけるフードドライブの実施等で食品ロス問題の広報・啓発活動を行っている。	資源循環課	市民	通年	—	①食品ロスポスター展示 第一本庁舎・第二本庁舎・各支所・各駅前行政センター・リサイクルプラザ:10/1～10/31 ②食品ロスパネル展示 第一本庁舎:5/27～5/31 中央図書館:5/31～6/24 鳩ヶ谷庁舎:10/1～10/31 ③食品ロス学習・小学生用社会科学習資料を市内小学校52校に配布 ④フードドライブ実施 市内公民館等15箇所 環境フォーラム	食品ロスに関する情報の周知を図ることができた。	より多くの市民に啓発する。	従来の方法に加え、各種イベントでもパネル展示やリーフレットの配布を積極的に行う。	継続	家庭から排出される食品ロス削減のため、継続して周知・啓発を行う。
39	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	農業体験事業	市民の農への理解を促進するため、農業の初心者等で家庭菜園を楽しみたい方を対象に野菜づくりの知識とコツを学ぶ講座を開催した。	農政課	市内在住・在勤	1回目 2回目 令和6年9月 令和7年2月	—	参加者数 1回目 28人 2回目 29人	野菜作りの知識やコツを学ぶ家庭菜園講習会を実施することで、農あるライフスタイルの推進とともに市民の農に対する理解促進に貢献した。	昨年度、会場を変えて開催を行った。他の会場を希望する声もあがっているため、より多くの市民が参加できるよう会場の検討が必要である。	1月の講習会の会場を変えて開催することで、より多くの市民に参加してもらえるよう事業を拡大していく。	継続	市民の農へのさらなる理解促進と家庭菜園講習会のさらなる周知拡大を図る。

食育推進計画(第二次)掲載事業(令和6年度実績)

No.	該当する目標	事業名	事業内容	実施課	対象者	令和6年度実施時期	令和6年度実績(経費)	令和6年度実績(その他)	効果	課題	課題の解決策	令和7年度の方針性	令和7年度の方針性(詳細)
40	3 川口の食文化 知ろう 創ろう つなげよう	市役所マルシェの開催	市役所第一本庁舎1階多目的スペースで毎月1回程度開催し、地産産物の新鮮野菜、鉢花、加工品等の宣伝及び販売をする。	農政課	市民・来庁者	通年 (月1回程度)	—	出店数 平均3.1店舗 実施回数 16回	市内で生産された特産物等の消費拡大及び農業関係者と市民の交流が深まることで、地産産物の振興に繋がった。	継続的な開催により、イベント来訪者が定着してきているものの、依然として「開催を初めて知った」「これは何のイベントなのか」といった声が寄せられるため、同イベント知名度・認知度の向上が必要である。	新たなPRチラシ・ポスターの作成など積極的に広報媒体を利用して、同イベントがより多くの市民等に浸透するよう周知強化を図る。	継続	引き続き定期開催(月1回程度)に加え、臨時開催を行うことで、より一層の市内産農産物のPRを図る。
41	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	公民館講座	食の大切さを学ぶ講座を実施する。	生涯学習課(公民館等)	市内在住・在勤・在学のかた	通年	—	参加者数 延べ9,268人 実施回数 延べ38講座 66回	料理の楽しさや、食べることの大切さを学ぶ機会になった。	料理教室といった実務実技講座が多く、座学で学ぶ講座が少ない。	実技だけではなく、健康増進や生活習慣病対策などの講座を実施する。	継続	引き続き様々な講座を実施していく。
42	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	中央ふれあい館講座	食の大切さを学ぶ講座を実施する。	生涯学習課(公民館等)	市内在住・在勤・在学のかた	通年	—	参加者数 延べ377人 実施回数 延べ4講座 5回	料理の楽しさや、食べることの大切さを学ぶ機会になった。	料理教室といった実務実技講座が多く、座学で学ぶ講座が少ない。	実技だけではなく、健康増進や生活習慣病対策などの講座を実施する。	継続	引き続き様々な講座を実施していく。
43	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	生涯学習プラザ講座	食の大切さを学ぶ講座を実施する。	生涯学習課(公民館等)	市内在住・在勤・在学のかた	通年	—	参加者数 延べ591人 実施回数 延べ4講座 6回	料理の楽しさや、食べることの大切さを学ぶ機会になった。	料理教室といった実務実技講座が多く、座学で学ぶ講座が少ない。	実技だけではなく、健康増進や生活習慣病対策などの講座を実施する。	継続	引き続き様々な講座を実施していく。
44	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	学校ファーム推進事業	市内小中学校から毎年10校程度をモデル校として実施。学校ファームやプランターなどを活用した農業体験活動を実施し、取組状況と成果をリーフレットにまとめ、市内の学校に啓発している。	指導課	市内児童生徒	通年	700,000円	小学校 6校 中学校 4校	児童生徒の勤労観・職業観が育成され、農業に関する意識が高まっている。また、農業体験を通じて、食べ物への感謝の気持ちや、食料生産者への思いなども報告されている。	一部の学年では取り組んでいる、全学年では実施できなかったことが課題となった。また、保護者や地域、学校応援団などの人材を活用した持続可能な仕組みづくりが課題であった。	年間指導計画を見直し、保護者や地域、学校応援団のご協力をいただきながら連携を図って活動できるようにしていく。	継続	〇教育課程上の位置付けを明確にし、農業者や農協等の支援が図られるように関係機関等との連携を図る。 〇令和7年度は、飯仲小学校、並木小学校、芝穂ノ爪小学校、芝中央小学校、鳩ヶ谷小学校、中野小学校、北中学校、元郷中学校、幸並中学校、附属中学校の10校を推進モデル校として指定する。
45	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	学校訪問	特別活動を中心に、教科・領域においての食の視点を踏まえた授業を参観し、学校における『食に関する指導』の推進について指導及び助言を行い、各学校で共通理解を図り、児童生徒が食生活に対する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けられるよう実施している。	学校保健課	市内小中学校	R5.5月～R6.2月	—	小学校10校 中学校 8校	養護教諭・栄養教諭等の積極的な参画を得て専門性の高い『食に関する指導』が実践されており、授業実施数も増加傾向にある。指導体制も充実してきている。	児童生徒に共通した問題を取り上げてはいるが、自身の生活上の問題を受けとめ、課題に向き合うことなく行われている授業がある。そのため、児童生徒は授業での学びを通して、最終的に今後の生活を考え、自ら改善して、生涯にわたって望ましい食習慣が形成されるようにしなければならない。	学校訪問や食に関する指導推進研修会を通じ、指導方法や提示する資料の工夫について指導していく。	継続	栄養教諭等が常駐していないセンター配属調理小中学校における『食に関する指導』の推進、校内における食育コーディネーターの育成も含め、学校給食を「生きた教材」として活用した『食に関する指導』の推進に向け働きかけていく。
46	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	歯科保健指導の充実	口腔衛生に関する指導資料冊子を作成し、各学校の授業等において活用することで、歯科保健活動の充実を図る。	学校保健課	市立小学校1年生・中学校1年生の児童生徒	各学年6月頃～	410,685円	配布数 10,100冊 配布回数 1回	むし歯予防や早期発見、早期治療を図ることにつながり、また自分の歯や口腔衛生に関する意識改善に寄与することができた。	口腔衛生は、子供の生活環境や食生活の影響を受けるものであることから、学校だけでなく、家庭や地域社会との連携が不可欠である。	冊子を活用して、家庭地域へ発信するよう学校に発信していく。	継続	児童生徒が口腔衛生に関する正しい知識と望ましい習慣を身につけ、口腔衛生の保持を深め、自分の健康は自分で守る意欲・意識の向上を図っていく。
47	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	小児生活習慣病予防検診	定期健康診断の結果、肥満度が30%以上となった児童生徒のうち希望者に対して、血液検査、身体測定、血圧測定を行い、児童生徒の将来的な生活習慣病罹患を予防し、生涯にわたり健康な生活を送ることができるようにする。	学校保健課	肥満度30%以上の児童生徒(市立小学校4年生・中学校1年生)のうち受診希望者	10月～12月	985,600円	実施回数 3回	児童生徒の健康状態を把握し、望ましい生活習慣への改善のための指導や、必要な場合は医療機関の受診を促すなど、将来の生活習慣病予防に向けた取組を促進することができた。	受診対象者及び保護者の健康保持増進への意識を高め、受診率を上げる。	受診対象者及び保護者が受診しやすい日程とする。受診対象者及び保護者へ受診の必要性を認識してもらえらるようにする。	継続	土曜日の実施の継続。受診対象者及び保護者が受診しやすい日程を検討する。啓発冊子等の配布や通知方法を工夫することで受診者を増やし、事業の効果を高める。
48	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	家庭配付用献立表の作成	献立名、栄養価の他、使用食材を栄養素によって3群に分類し、食べ物の働きがわかるように記載した献立表を各家庭に配付したり、市ホームページに掲載したりし、学校における食育の推進において、家庭との連携がとれるようにする。	学校保健課	市立小・中学校の児童生徒とその保護者	通年	—	給食だより 11回 献立表 11回	児童生徒や保護者等の献立、衛生管理及び健康への関心を高めることに寄与することができた。	市のホームページやLINEなどの電子媒体での情報提供にも努めているが、全ての児童生徒や保護者に見ていただくことが課題である。	より多くの保護者等に見ていただけるよう、効果的な配信方法を研究し、情報発信を行っていく。	継続	さらに食育の推進のため、今後も事業を継続していく。
49	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	献立日誌の作成	毎日の給食で使用している食品、一人分の使用量、使用されているアレルギー表示基準の28品目を表記した献立表を作成し、アレルギーを有する児童生徒のいる各家庭に配付したり、市ホームページに掲載したりすることで、安全・安心な給食提供を実施する。	学校保健課	市立小・中学校の児童生徒とその保護者	通年	—	献立日誌 11回	毎日の給食で使用している食品、一人分の使用量、使用されているアレルギー等を記載した献立日誌を作成し、アレルギーを有する児童生徒のいる保護者への配布や、市ホームページへの掲載をすることで、安全・安心な給食の実施を図ることができた。	食物アレルギーに係る事故を防ぐため、保護者や学校に献立日誌を十分に活用していただくことが課題である。	アレルギーに係る会議等を通じて、献立日誌の活用状況の把握に努め、必用に応じて記載内容の改善なども行っていく。	継続	さらに食育の推進のため、今後も事業を継続していく。
50	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	学校給食で提供された料理のレシピ紹介	学校給食で提供された献立のレシピを市ホームページに掲載することで、栄養バランスがとれ、人気のメニューをお知らせするとともに、家庭におけることもと保護者との会話や関係づくりの一助となるようにする。	学校保健課	市立小・中学校の児童生徒とその保護者	通年	—	市立小・中学校リーフレット「川口市の給食」学校給食週間に合わせて年1回	児童生徒や保護者等の学校給食への関心を高めることに寄与することができた。	定番の献立やレシピなどを配信しているが、全ての児童生徒や保護者に見ていただくことが課題である。	より多くの保護者等に見ていただけるよう、効果的な配信方法を研究し、情報発信を行っていく。	継続	さらに食育の推進のため、今後も事業を継続していく。
51	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	食に関する指導推進研修	学校教育活動全体で食に関する指導を推進する上で、中核的な役割を担う教員・栄養教諭等の食に関する指導の充実と資質の向上を目的とし、令和4年度に県の委嘱を受け様々な授業実践や取組を行った本町小中学校の教員を指導者に迎え、研修を行った。	学校保健課	市内小中学校教職員、栄養教諭、学校栄養職員	R6.10.25	—	参加者数80名	実際に市内小中学校で行われた授業実践や様々な取組を知り、それぞれの学校での取組の参考となった。	研修に参加した教員への「食に関する指導」の周知は図れているが、所属校に戻ってからの周知、取組が不十分である。	「学校における食育の推進」が学習指導要領に明確に位置付けられていることを認識させ、食に関する全体計画、年間計画の見直しを呼びかける。	継続	ICTを利用した指導や若手、ベテランのそれぞれの参考となる指導の実践例を学べる研修会とする。
52	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	給食主任会	学校給食の概要、学校給食の運営と事務手続き等を周知するとともに、学校給食における食物アレルギー対応の内容等を中心に、校内における給食主任の役割について確認している。	学校保健課	市内小・中学校給食主任、学校給食センター栄養士	R6.4.12	—	参加者数90名	年度当初に開催することで、今年度目標とする取組やアレルギー対応について周知することができ、また、給食主任としての基本的な役割を確認することで、自校の取組を更に充実していく一助となった。	4月中旬の研修日程のため、年度当初の各校における給食に関する研修は終了し、すでに給食の指導が始まっている段階である。	「川口市立小中学校における食物アレルギー対応マニュアル【3訂】」に沿った学校給食運営が行われるよう各研修会や栄養士による巡回指導等で周知していく。認識の相違が見られる事項については、食育担当及び保健担当が行う研修で確認、周知、共通理解を図る。給食主任会は給食が始まる前に行えるようにする。	継続	引き続き、学校給食の運営、食に関する指導の推進、食物アレルギー対応の核となる給食主任の効果的な情報交換の機会となるよう努めていく。年度初めに重要事項について確認できるように開催はできるだけ早い時期に移動していく。
53	3 川口の食文化 知ろう 創ろう つなげよう	行事食の提供	日本の伝統的な食文化や食に関わる歴史等に興味・関心をもてるように、学校給食において行事食を取り入れる。	学校保健課	市内小中学校の児童生徒	通年	—	小学校 52校 中学校 26校 行事食 10回	行事食という特別な給食を通して、行事や食への興味・関心・理解を深めることに寄与することができた。	行事食に係る情報を全ての児童生徒に浸透させることが課題である。	献立に係る会議等を通じて、児童生徒の状況把握に努め、効果的な方法での情報発信を行っていく。	継続	食育の推進のため、今後も事業を継続していく。
54	3 川口の食文化 知ろう 創ろう つなげよう	県産の食材の使用、郷土料理の提供	県が定めた「彩の国ふるさと学校給食月間」には、県産の食材を取り入れた学校給食の提供を行ったり、郷土料理を給食に取り入れたりすることで、郷土に伝わる食文化を大切にしようとする気持ちを育む。	学校保健課	市内小中学校の児童生徒	通年	—	小学校 52校 中学校 26校 郷土食 36種 延べ3,708回	郷土食という特別な給食を通して、地域や食への興味・関心・理解を深めることに寄与することができた。	郷土食に係る情報を全ての児童生徒に浸透させることが課題である。	献立に係る会議等を通じて、児童生徒の状況把握に努め、効果的な方法での情報発信を行っていく。	継続	食育の推進のため、今後も事業を継続していく。

食育推進計画(第二次)掲載事業(令和6年度実績)

No.	該当する目標	事業名	事業内容	実施課	対象者	令和6年度実施時期	令和6年度実績 (経費)	令和6年度実績 (その他)	効果	課題	課題の解決策	令和7年度の方向性	令和7年度の方向性(詳細)
55	3 川口の食文化 知ろう 創ろう つなげよう	市ゆかりの献立の提供	11月10日「川口の日」前後の献立には、市ゆかりの鰯物汁、鉄骨いなりちらし、ソース焼きうどん等を給食献立に取り入れ、提供することで、郷土に伝わる食文化を大切にしようとする気持ちを育む。	学校保健課	市内小中学校の児童生徒	通年	—	小学校 52校 中学校 26校	市ゆかりの献立という特別な給食を通して、市や食への興味・関心・理解を深めることに寄与することができた。	市ゆかりの献立に係る情報を全ての児童生徒に浸透させることが課題である。	献立に係る会議等を通して、児童生徒の状況把握に努め、効果的な方法での情報発信を行っていく。	継続	食育の推進のため、今後も事業を継続していく。
56	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	健康教育	健康増進法に基づき、生活習慣病予防及び介護予防、その他健康に関する事について(がん・肥満・ロコモティブシンドローム(運動器症候群)等)の集団健康教育を実施する。また、他部署、地域団体等からの要望により、健康教育の講師として随時出講している。	健康増進課 地域 保健センター	おおむね40歳以上の市民	通年	976,339円	参加者数 4,480人 開催回数 100回	包括連携協定を結んだ民間企業と実施したことで、展示物の提供や測定ブースの設置協力を得るなど広く健康や疾病予防に関する知識の普及が行えた。	疾病予防を目的としているが、参加者にリピーターや高齢者が多い。又、当日欠席する人が多い。	対象者に合わせて、IoTを活用した教育を実施し、内容や会場、日時等を工夫して開催する。	継続	民間企業と協働し、対象者に合った企画内容、周知を実施する。